

# 昭和61年度第1回核種生成量評価WG議事録

1. 日 時 昭和61年11月13日（木）13：30～17：00
2. 場 所 原研本部 第5会議室
3. 出席者 中嶋龍三, 吉田 正, 阿部純一, 奥田泰久, 鈴木正年, 内藤俊孝  
片倉純一  
村田 徹（オブザーバー）
4. 配布資料
  - (1) 核データ研究会講演会アブストラクト, JENDL-3 以後に対するコメント（案）（原研：内藤俊孝）
  - (2) アクチニドの生成・崩壊検討データ
  - (3)  $^{18}\text{O}$  ( $\alpha$ , n)  $^{21}\text{Ne}$  反応による中性子放出量計算方法
5. 議 題
  - (1) COMRADコードの課題の整理
  - (2) アクチニド核種の取扱いについて
  - (3) ( $\alpha$ , n) 反応の取扱いについて
  - (4) 1群断面積の検討
  - (5) 今後の作業の進め方
6. 議 事
  - (1) COMRADコードの課題について内藤委員が説明  
燃焼度依存の一群定数の作成には問題点があり、現在改良中である。
  - (2) アクチニド核種について吉田委員が説明  
Amのmetaとgroundの問題、(n, 2n), (n, 3n) 反応等評価者へ何らかの方法で知らせておいた方が良いとの指摘があった。
  - (3) ( $\alpha$ , n) 反応について村田委員が説明  
コードに組込むには、出来るだけ簡易式で表現したらよいと考える。O, C, F, N, Be, Li 程度が必要と考えられる等の指摘があった。なお、どういう体制でやるかは JENDL-3 以後のスコープの中で考えて行くことになった。
  - (4) 今後の方針について

- アクチニドの断面積処理は、62年末に一挙に処理したい。
- FP の Decay 関係は61年度末で完成する NDC ファイルを使用できるよう  
にする。
- $(\alpha, n)$  の作成方法について今後検討する。
- Spontaneous fission,  $\nu$ ,  $\lambda_{s.f.}$ ,  $\chi$ についても、どこで評価する  
かも含め検討して行く。